

アイチコーポレーション

クローラ式 (内燃機式)

適用範囲		モデル名		SR10C1SM	SR12C1SM	SR19CSM	SR21CSM		
		適用号機又はスペック番号		STD	STD	STD	STD		
		最大作業床高さ (m)		9.8	12.1	18.7	20.7		
区分	検査箇所	適用項目 ※測定条件、方法	単位	検査基準値					
エンジン	エンジン本体	エンジン回転速度	ローアイドル	min ⁻¹	1350	1350	950	950	
			ハイアイドル	min ⁻¹	2400	2400	2000	2000	
		弁すき間	吸気弁	mm	0.15~0.25	0.15~0.25	0.15~0.25	0.15~0.25	
			排気弁	mm	0.15~0.25	0.15~0.25	0.15~0.25	0.15~0.25	
		圧縮圧力		Mpa (kgf/cm ²)	3.43 (35)	3.43 (35)	3.43 (35)	3.43 (35)	
		燃料噴射圧力		Mpa (kgf/cm ²)	— —	— —	— —	— —	
		回転速度		min ⁻¹	250	250	250	250	
	冷却装置	ファン駆動ベルト張り		mm	10~13	10~13	10~13	10~13	
		※ベルト押し付け力		N (kgf)	98 (10)	98 (10)	98 (10)	98 (10)	
	走行装置	履帯 クローラベルト	鉄シユール	張り(たわみ量)※5	mm	160~170	160~170	280~310	280~310
クローラリンクピッチ (4リンクピッチ)※8				mm	—	—	700	700	
走行ブレーキ		制動距離		m	—	—	—	—	
駐車ブレーキ	最低停止保持勾配		°	—	—	—	—		
作業装置	ブーム	スライディング パッド部がた	上下方向	mm	0.5~0.9	0.5~0.9	0.6~1.1	0.6~1.1	
			左右方向	上側	mm	0.5~0.9	0.5~0.9	0.3~0.8	0.3~0.8
				下側	mm	0.5~0.9	0.5~0.9	0.3~0.8	0.3~0.8
		スライディングパッド		摩耗量	mm	2.0	2.0	2.0	2.0
油圧装置	油圧ポンプ	吐出圧	首振り側	Mpa (kg/cm ²)	— —	— —	20.6 (210)	20.6 (210)	
			走行側	Mpa (kg/cm ²)	20.6 (210)	20.6 (210)	34.3 (350)	34.3 (350)	
		ポンプ回転数	低速	min ⁻¹	1350	1350	1400	1400	
			高速	min ⁻¹	2400	2400	2000	2000	
	※作動油		—	VG22	VG22	VG22	VG22		
	油温		°C	40±10	40±10	40±10	40±10		
	油圧シリンダー	自然降下量 ※1	起伏	mm/10min	2.0	2.0	2.0	2.0	
伸縮			mm/10min	2.0	2.0	2.0	2.0		
平衡装置			mm/10min	2.0	2.0	2.0	2.0		
安全装置	車体傾斜角 警報装置	作動角度	前後	°	3.0±0.5	3.0±0.5	3.0±0.5	3.0±0.5	
			左右	°	3.0±0.5	3.0±0.5	3.0±0.5	3.0±0.5	
	走行規制	起伏45度以上		—	—	○	○		
		ブーム伸長1.0m以上+起伏5度以上		—	—	○	○		
	高速走行規制	ブーム姿勢	起伏角	°	—	—	5度以上	5度以上	
			伸縮	m	—	—	1.0m以上	1.0m以上	
	作業範囲 規制装置	作業範囲規制 ※9		—	—	—	○	○	
モーメントリミッタ ※9		—	—	—	—	—			

SR21CJM							
STD							
20.7							
検査基準値							
950							
2000							
0.15~0.25							
0.15~0.25							
3.43 (35)							
— —							
250							
10~13							
98 (10)							
280~310							
700							
— —							
0.6~1.1							
0.3~0.8							
0.3~0.8							
2.0							
20.6 (210)							
34.3 (350)							
1400							
2000							
VG22							
40±10							
2							
2							
2							
3.0±0.5							
3.0±0.5							
○							
○							
5度以上							
1.0m以上							
○							
—							

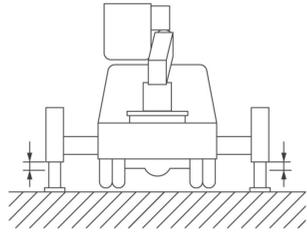
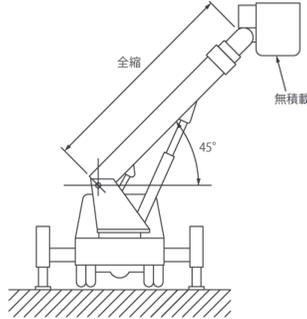
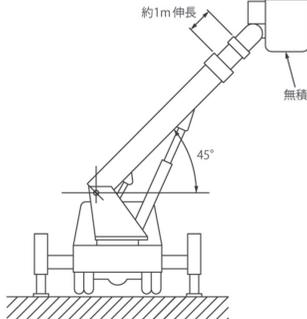
アイチコーポレーション

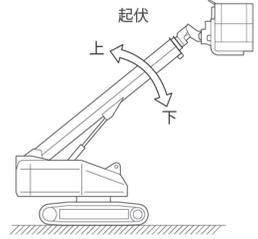
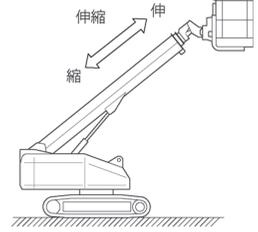
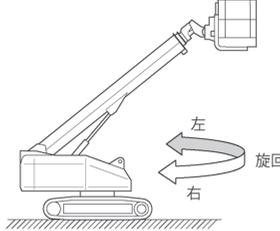
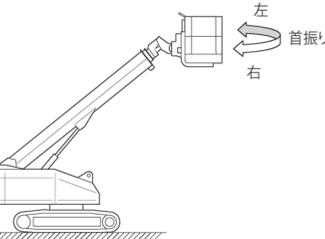
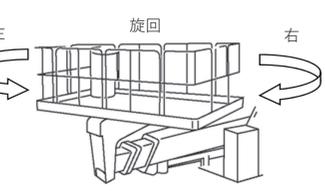
適用範囲		モデル名		SR10C1SM	SR12C1SM	SR19CSM	SR21CSM	
		適用号機又はスペック番号		STD	STD	STD	STD	
		最大作業床高さ (m)		9.8	12.1	18.7	20.7	
区分	検査箇所	適用項目 ※測定条件、方法	単位	検査基準値				
総合テスト	作動速度 測定方法 ※2	起伏(リフト)	上	s	35±6	35±6	40±6	40±6
			下	s	35±6	35±6	40±6	40±6
		伸縮	伸	s	25±5	25±5	35±6	40±6
			縮	s	25±5	25±5	35±6	40±6
		旋回	右	s	80±6	80±6	80±12	80±12
			左	s	80±6	80±6	80±12	80±12
		ジブ起伏	上	s	—	—	—	—
			下	s	—	—	—	—
		バスケット首振	右	s	25±5	13±4	15±3	15±3
			左	s	25±5	13±4	15±3	15±3
		走行	高	km/h	1.5±0.3	1.5±0.3	1.8±0.3	1.8±0.3
			低	km/h	0.9±0.2	0.9±0.2	0.5±0.1	0.5±0.1

注) 安全装置の作業範囲規制装置測定方法はモデルやウエイトの重量によって異なります。
測定方法はサービスマニュアルを参照して下さい。

クローラ式 (内燃機式)

SR21CJM								
STD								
20.7								
検査基準値								
40±6								
40±6								
40±6								
40±6								
80±12								
80±12								
30±5								
30±5								
15±3								
15±3								
1.8±0.3								
0.5±0.1								

<p>※1. シリンダー自然降下量</p> <p>1) ジャッキシリンダー</p> <p>[測定要領]</p> <ol style="list-style-type: none"> 車体を水平堅度土上にセットする。 エンジン停止させる ジャッキレバーを「入」に数回操作し、残圧を抜く ジャッキポストにマーキングまたは、ダイヤルゲージをセットする 1分後、0点を合わせる 10分経過させる 自然降下量を測定する (前右、前左、後右、後左) <p>[判定基準]</p> <p>ジャッキポストのストロークにて 1mm 以内/10分</p>	
<p>2) 起伏シリンダー</p> <p>[測定要領]</p> <ol style="list-style-type: none"> ブームを起伏各 45° にセットする エンジン停止させる 起伏シリンダーのロッドにマーキングまたはダイヤルゲージをセットする 残圧を抜き1分後または5分後、0点を合わせる 10分経過させる 自然降下量を測定する <p>[判定基準]</p> <p>ピストンロッドのストロークにて 2mm 以内/10分</p>	
<p>3) 伸縮シリンダー</p> <p>[測定要領]</p> <ol style="list-style-type: none"> ブームを起伏各 45° にセットする ブーム長さを 1m にセットする エンジン停止させる 第 2 ブームにマーキングまたはダイヤルゲージをセットする 残圧を抜き1分後または5分後、0点を合わせる 10分経過させる 自然降下量を測定する <p>[判定基準]</p> <p>第 2 ブームのストロークにて 2mm 以内/10分</p>	

<p>※2. 速度測定方法</p> <p>[測定要領]</p> <ol style="list-style-type: none"> 車体を水平堅度土上にセットする。 作業車の作業範囲に障害物がないことを確認する 油温は 40±10°C で行なう <p>1) ブーム起伏速度</p> <ol style="list-style-type: none"> ブーム全縮状態で、起伏下操作により「下」エンド下げる 起伏上操作にて「上」エンドまでの時間を測定する 	
<p>2) ブーム伸縮速度</p> <ol style="list-style-type: none"> ブームを全縮状態で起伏上操作により「上」エンドまで上げる 伸操作により「伸」エンドまでの時間を測定する 縮操作により「縮」エンドまでの時間を測定する 	
<p>3) ブーム旋回速度</p> <ol style="list-style-type: none"> ブームを全縮、起エンドの状態にする ブーム旋回操作により 1 回転するまでの時間を測定する ブーム右旋回、左旋回共に行なう 	
<p>4) 首振り速度</p> <ol style="list-style-type: none"> 首振り操作にて右エンド～左エンドまでの作動時間を測定する 首振り右操作、左操作共に行なう 	
<p>5) プラットフォーム旋回速度</p> <ol style="list-style-type: none"> ブームを全縮、起エンドの状態にする ブーム旋回操作により 1 回転するまでの時間を測定する ブーム右旋回、左旋回共に行なう 	

<p>6) ブーム起伏速度</p> <p>(1) ブーム全縮状態・首振り格納、起伏MAX位置から起伏下操作により「下」→起伏水平停止 ($0 \pm 1^\circ$) 位置までの時間を測定する。</p> <p>(2) 起伏水平位置より、起伏上操作にて「上」→起伏MAX位置までの時間を測定する</p>	
<p>※3. 走行速度測定方法</p> <p>[測定要領]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 車両を水平なアスファルト、コンクリートまたは堅土上にセットする 2) 走行操作レバーをいっぱいまで操作する 3) 車両が最大速度になるまで助走させる 4) 速度が安定した走行区間の速度を測定する <p>※ブームの姿勢や切り替えスイッチを切り替え「高速」、「低速」を行う</p>	
<p>※4. 走行直進性測定方法</p> <p>[測定要領]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 車両を水平なアスファルト、コンクリートまたは堅土上にセットする 2) 走行操作レバーをいっぱいまで操作する 3) 車両が最大速度になるまで助走させる 4) 最高速度で約10m走行させ曲がった距離を測定する 	

<p>※5. 履帯たわみ測定方法</p> <p>[測定要領]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 車両を水平なアスファルト、コンクリートまたは堅土上にセットする (2) 第1ブーム先端部に支柱セットする (3) ブーム「伏」操作を行い履帯を地面から30mm~50mm浮かせたわみ量の測定をする <p>1) SR10CSM、SR12CSM</p> <p>2) SR19CSM/21CSM/21CJM</p>	
<p>※6. 小型履帯たわみ測定方法</p> <p>[測定要領]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 車両を水平なアスファルト、コンクリートまたは堅土上にフレームを上げた(60mm以上)状態保ちクローラ▲合マークを本気中央下側に合わせ測定 	
<p>※7. 走行駆動用チェーンたわみ測定方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) スプロケット上側チェーンを張るように、前進及び後進して停止 2) 下側チェーンスプロケット間の中央位置を $9 \pm 1 \text{kgf}$ にて押し引きし、S-S' 間寸法を測定してください。 	<p>チェーン張り基準</p>

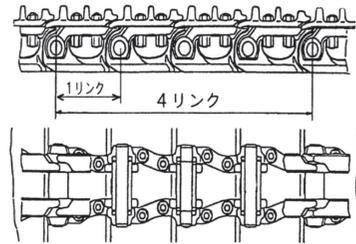
アイチコーポレーション

※8. 鉄製履帯リンクピッチ測定方法

[測定要領]

- 1) マスタピンから1~2リンク離れた4リンク分を測定する

注: シューリンクを張った状態で測定すること。



※9. 作業半径測定方法

[検査機器]

1. 角度計
2. 巻尺
3. 重垂
4. 水系

※測定値や測定方法はモデルによって異なります
また同じ機種でも張り幅やウエイトの重量によっても異なります

[測定例 L-MAX]

※測定はL-MAX（ブーム全伸長）の他にL-MIN（起伏角水平）があります。

詳細はサービスマニュアルを参照してください

- 1) 車両を水平堅土上にセットする
- 2) ジャッキにより全タイヤを地切りさせる
- 3) 車体は前後左右水平にセットする
(張り幅によって測定値、測定方法が異なります)
- 4) バケツにウエイトを積載する
(機種、仕様により異なっているので各機種のデータを参照のこと)
- 5) ブームの操作は下操作で行なう
- 6) ブーム操作は低速にて行なう
- 7) ブームが自動停止した作業半径を測定する
- 8) 規定の作業半径（最大許容作業半径）に達しても、ブームの作動が停止しない場合は操作をやめ、作業半径が大きくなる側への操作は絶対に行わないこと
- 9) 測定後ブームを操作する際は、ブームを全縮にした後、旋回操作を行なうこと

